

戦後 80 年特別企画リバイバル展示のご案内

石川光陽写真展 戦時下の東京

昭和館では令和 6 年 11 月から令和 7 年 12 月までの約 1 年間、所蔵する 9,600 点あまりの石川光陽の写真から厳選し、3 期に分けて写真展を開催してきました。

戦後 80 年の節目の年が終わろうとしている今、令和 7 年 3 月から 6 月にかけて開催した、石川光陽写真展 第 2 期「戦時下の東京」の写真をリバイバル展示いたします。

■ 開催概要

- 会場：昭和館 3 階特別企画展会場（入場無料）
- 会期：2025 年 12 月 16 日（火）～2025 年 12 月 26 日（金）
- 開館時間：10：00～17：30（入館は 17：00 まで）
- 休館日：月曜日（12 月 22 日）

■ 石川光陽の略歴

石川光陽（本名 石川武雄）は、明治 37 年（1904）福井県に生まれました。昭和 2 年（1927）に警視庁へ入庁し、退職するまで警察官の立場から昭和を記録しました。とりわけ戦中の空襲被害については、警視総監から特命を受けて記録したもので、戦争の悲惨さを現代に伝えています。また、東京に暮らす一市民として、何気ない日常を写真に収めています。



明治 37 年（1904）	福井県に生まれる（父の仕事の都合で静岡県のち長野県へと転居）
大正 8 年（1919）	九段下の蜂谷写真館で修行を始める
大正 10 年（1921）頃	長野県松本市で父と共に写真館を始める
昭和 2 年（1927）	警視庁へ入庁、写真撮影担当となる（赤坂表町警察署（現・赤坂警察署）勤務）
昭和 6 年（1931）	警視庁本庁勤務
昭和 7 年（1932）	当時の警視総監であった藤沼庄平より「光陽」の名を受ける
昭和 20 年（1945）9 月	GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）から空襲被害を撮影したフィルムの提出を要求されるが、自宅の庭などに埋めて守り通す
昭和 38 年（1963）	警視庁を依頼退職
昭和 63 年（1988）	戦前から昭和 30 年代までの作品をまとめた写真集『グラフィック・レポート 痛恨の昭和』を、岩波書店より著作出版
平成 元年（1989）	逝去

■ 主な展示写真

	
<p>出陣学徒壮行会 東京都新宿区霞ヶ丘町 昭和 18 年(1943)10 月 21 日</p>	<p>空襲下の数寄屋橋付近 東京都中央区銀座 昭和 20 年(1945)1 月 27 日</p>

■ その他展示等

●石川光陽写真展関連展示「光陽となる」

警視総監による「光陽」の命名についての資料を会場で展示いたします。

●オーラルヒストリー「命がけで空襲を記録し守り抜いた父、石川光陽」

石川光陽の次女の石川令子さんの体験談（オーラルヒストリー）を、会場の大型モニターにて放映いたします。

<p>＜お問合せ先＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和館 図書情報部 情報検索係 財満・舟越 TEL : 03-3222-2574 FAX : 03-5216-3152 E-mail : info@showakan.go.jp 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1 <p>＜交通アクセス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 電車をご利用の場合 地下鉄九段下駅から徒歩 1 分 (東西線・半蔵門線・都営新宿線 4 出口) JR 飯田橋駅から徒歩約 10 分 車をご利用の場合 首都高速西神田ランプから約 1 分（九段下交差点） 普通乗用車専用駐車場がご利用になれます。 有料駐車場（30 分 200 円） 	
---	--